

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2012-176806
(P2012-176806A)

(43) 公開日 平成24年9月13日 (2012.9.13)

(51) Int.Cl.
B 6 5 D 25/28 (2006.01)

F I
B 6 5 D 25/28 1 0 4

テーマコード (参考)
3 E 0 6 2

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2012-111320 (P2012-111320)	(71) 出願人	000002439
(22) 出願日	平成24年5月15日 (2012. 5. 15)		株式会社シマノ
(62) 分割の表示	特願2007-112920 (P2007-112920) の分割	(74) 代理人	110000202 新樹グローバル・アイビー特許業務法人
原出願日	平成19年4月23日 (2007. 4. 23)	(72) 発明者	東山 貴一 大阪府堺市堺区老松町 3 丁 7 7 番地 株式 会社シマノ内
		(72) 発明者	高下 昌士 大阪府堺市堺区老松町 3 丁 7 7 番地 株式 会社シマノ内
		(72) 発明者	山根 卓朗 大阪府堺市堺区老松町 3 丁 7 7 番地 株式 会社シマノ内
		F ターム (参考)	3E062 AA01 BB10 GA06 GB09 HA06 HC15 HC17 HD02

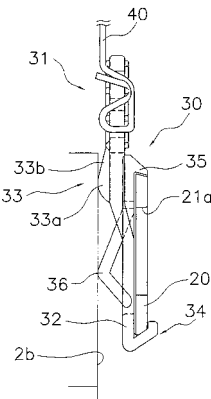
(54) 【発明の名称】 クーラーボックスの運搬用部材の取り付け構造

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 ハンドルをクーラーボックスに着脱可能にする
とともにハンドルをクーラーボックスに取り付けた後に
、ハンドルがクーラーボックス本体から外れるのを防止
する。

【解決手段】 取り付け板は、クーラーボックス本体の壁
面から所定の間隔を隔てて設けられ、孔を有する。係止
部材 3 0 は、取り付け板の下端に係止可能な第 2 係止部
3 4 と、取り付け板の上端に係止可能な第 3 係止部 3 5
と、第 2 係止部 3 4 と第 3 係止部 3 5 とを接続し、第 2
係止部 3 4 を取り付け板の下端に係止させる際に第 3 係
止部 3 5 を取り付け板の上端に係止するように付勢する
板バネ部 3 6 と、第 2 係止部 3 4 を取り付け板の下端に
係止させるように付勢する付勢機構と、板バネ部 3 6 に
接続され、ベルト 4 0 を取り付け可能なベルト取り付け
部とを有する。抜け防止部材は、ハンドルの突出部を孔
に挿入した際にハンドルが孔から抜けるのを防止する。

【選択図】 図 7



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

クーラーボックスの運搬の際に用いられるベルト又はハンドルのいずれか一方を選択的に前記クーラーボックス本体に取り付ける取り付け構造であって、

前記クーラーボックス本体の壁面から所定の間隔を隔てて設けられ、孔を有する取り付け板と、

前記取り付け板の下端に係止可能な第 2 係止部と、前記取り付け板の上端に係止可能な第 3 係止部と、前記第 2 係止部と前記第 3 係止部とを接続し、前記第 2 係止部を前記取り付け板の下端に係止させる際に前記第 3 係止部を前記取り付け板の上端に係止するように付勢する板バネ部と、前記第 2 係止部を前記取り付け板の下端に係止させるように付勢する付勢機構と、前記板バネ部に接続され、ベルトを取り付け可能なベルト取り付け部とを有する係止部材と、

前記孔に挿入可能な突出部が接続されたハンドル及び前記ハンドルの突出部を前記孔に挿入した際に前記ハンドルが前記孔から抜けるのを防止する抜け防止部材と、
を備え、

前記係止部材と、前記抜け防止部材とは、選択的に前記取り付け板に取り付け可能となっている、

クーラーボックスの運搬用部材の取り付け構造。

【請求項 2】

前記係止部材は、前記取り付け板と前記壁面との間に配置した際に、一部が前記孔から露出するように配置されており、

前記孔から露出している部分を押圧されると前記第 3 係止部と前記取り付け板との係止が解除される、

請求項 1 に記載のクーラーボックスの運搬用部材の取り付け構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、クーラーボックスの運搬用部材の取り付け構造、特に、クーラーボックス本体に運搬用部材を取り付ける際の取り付け構造に関する。

【背景技術】

【0002】

魚釣り等に使用されるクーラーボックスは、上部に開口を有し内部に水や魚などを収納可能なクーラーボックス本体と、クーラーボックス本体に開閉自在に装着された蓋部材とを備えている。このようなクーラーボックスでは、内部に水や魚などを収納する際には、蓋部材を開き、クーラーボックス本体の開口から水や魚等を内部に収納する。内部に水や魚などを収納した後、蓋部材を閉じる。

【0003】

ここで、このようなクーラーボックスには、運搬用のハンドルを取り付けられたものが存在する（特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開平 10-262535 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献 1 に記載のクーラーボックスでは、クーラーボックス本体にハンドルが固定されており、取り外すことができなかった。このために、蓋部材の開閉作業等の際にハンドルによって作業が行いにくくなる場合がある。このような課題を解決するために、ハンド

10

20

30

40

50

ルの取り外しができるようにしたものが考えられる。例えば、クーラーボックスの壁面に凹部を形成するとともに、この凹部に挿入可能な突起をハンドルに形成し、突起を凹部に挿脱することでハンドルの着脱ができるようにすることが考えられる。しかし、この場合には、ハンドルに形成された突起を凹部に挿入しているために、凹部から突起が抜け出る可能性がある。

【0006】

本発明の課題は、ハンドルをクーラーボックスに着脱可能にするとともにハンドルをクーラーボックスに取り付けた後に、ハンドルがクーラーボックス本体から外れるのを防止することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1に係るクーラーボックスの運搬用部材の取り付け構造は、クーラーボックスの運搬の際に用いられるハンドル又はベルトのいずれか一方をクーラーボックス本体に取り付ける取り付け構造であって、取り付け板と、係止部材と、ハンドル及び抜け防止部材と、を備えている。取り付け板は、クーラーボックス本体の壁面から所定の間隔を隔てて設けられ、孔を有する。係止部材は、取り付け板の下端に係止可能な第2係止部と、取り付け板の上端に係止可能な第3係止部と、第2係止部と第3係止部とを接続し、第2係止部を取り付け板の下端に係止させる際に第3係止部を取り付け板の上端に係止するように付勢する板バネ部と、第2係止部を取り付け板の下端に係止させるように付勢する付勢機構と、板バネ部に接続され、ベルトを取り付け可能なベルト取り付け部とを有する。ハンドルは、孔に挿入可能な突出部が接続されている。抜け防止部材は、ハンドルの突出部を孔に挿入した際にハンドルが孔から抜けるのを防止する。係止部材と、抜け防止部材とは、選択的に取り付け板に取り付け可能となっている。

【0008】

このクーラーボックスの運搬用部材の取り付け構造は、ハンドルを取り付ける際には、突出部を孔に挿入し、係止部材を取り付けることでハンドルが抜け落ちるのが防止される。そして、ベルトを取り付ける際には、ベルト取り付け部にベルトを取り付け、第2係止部及び第3係止部を取り付け板に係止するように取り付け板に係止部材を取り付ける。

【0009】

ここでは、選択的にハンドル又はベルトのいずれか一方をクーラーボックス本体に取り付けることができる。

【0010】

請求項2に係るクーラーボックスの運搬用部材の取り付け構造は、請求項1に記載のクーラーボックスの運搬用部材の取り付け構造であって、係止部材は、取り付け板と壁面との間に配置した際に、一部が孔から露出するように配置されている。孔から露出している部分を押圧されると第3係止部と取り付け板との係止が解除される。

【0011】

ここでは、孔から露出している部分を押圧することで第3係止部と取り付け板との係止が解除できるために係止部材を取り付け板から取り外しやすくなる。

【発明の効果】

【0012】

本発明では、ハンドルをクーラーボックスに着脱可能にするとともにハンドルをクーラーボックスに取り付けた際に、ハンドルがクーラーボックス本体から外れるのを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】クーラーボックス本体を示す図。

【図2】抜け防止部材の全体正面図。

【図3】ハンドルを孔に取り付けている状態の部分側面図。

【図4】ハンドルを孔に挿入している状態の正面図。

10

20

30

40

50

【図 5】係止部材の全体正面図。

【図 6】係止部材の全体側面図。

【図 7】係止部材を取り付け板に取り付けた状態を示す側面図

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

1. 構成

本発明の一実施形態に係るハンドル 50（図 2 参照）やベルト 40（図 7 参照）などの運搬用部材の取り付け構造によってハンドル 50 及びベルト 40 のいずれか一方が取り付け可能なクーラーボックス 1 について説明する。図 1 に示すように、クーラーボックス 1 は、本体部 2 と、蓋部 3 と、フック 4 とを有している。このクーラーボックス 1 に運搬用部材の取り付け構造によってハンドル 50 又はベルト 40 のいずれか一方が取り付け可能である。この運搬用部材の取り付け構造は後に詳述する。

10

【0015】

本体部 2 は、上部に開口を有する略直方体の部材であって、内部に魚等を収納可能な空間を有している。また、本体部 2 は、魚等を保存するものであり断熱効果を必要とするので、表面壁となるポリプロピレン製の部材の間に発砲ポリウレタン製断熱材を内包する構造である。さらに本体部 2 は、略長形状の底（図示せず）と、底の端部からそれぞれ底に略直交する方向に延びるように形成された側面 2 a、2 b、2 c、2 d を有している。

【0016】

蓋部 3 は、本体部 2 の開口を塞ぐための部材であって、蝶番（図示せず）によって開閉可能なように本体部 2 の上部に設けられている。また、蓋部 3 は、開口とほぼ同じ形状の板状部材である。

20

【0017】

フック 4 は、蓋部 3 を本体部 2 に密閉し固定する部材であって、本体部 2 及び蓋部 3 の双方に設けられている。また、フック 4 は、ポリプロピレンによって形成されている。フック 4 は別個形成された後に本体部 2 及び蓋部 3 にはめ込み接着されて固定されている。

【0018】

このように構成されたクーラーボックス 1 では、魚等の保冷使用とする物を氷等の低温物と共に内部に収納して使用される。クーラーボックス 1 の内部において冷氣は底部付近にたまりやすい。ここで、本体部 2 の前側面 2 a 及び背側面 2 c の底部付近が厚くなっており、断熱材が十分に配置されているので、底部付近の断熱を十分に高めることができ保冷効果が向上する。また、冷媒として氷を使用した場合、氷が溶けることにより生じる水は本体部内部の底面付近に溜まる。この溜まった水の温度上昇も効果的に抑えられるので、保冷効果が十分に向上する。さらに、全体として軽量構造とすることができる。

30

【0019】

さらにまた、本体部 2 は、クーラーボックス 1 の外部方向に向かって厚みが増すようになっていて、内部の容量を減少させることもない。さらに、持ち運び時に障害物にぶつかって破損しやすい側面 2 a、2 b、2 c、2 d 及び底部を保護することも可能である。

【0020】

40

2. 運搬用部材の取り付け構造

運搬用部材の取り付け構造は、クーラーボックス 1 にハンドル 50 またはベルト 40 のいずれか一方を取り付けるための構造であって、取り付け部材 20 と、係止部材 30 と、ハンドル 50 と、抜け防止部材 60 とを備えている。

【0021】

取り付け部材 20 は、図 1 に示すように、クーラーボックス 1 の本体部 2 の右側面 2 d 及び左側面 2 b に配置された部材であって、取り付け板部 21（取り付け板）と、接続部 22 とを有している。以下、左側面 2 b に設けられた取り付け構造について説明するが、右側面 2 d にも同様の取り付け構造が設けられている。

【0022】

50

取り付け板部 2 1 は、クーラーボックス 1 の左側面 2 b（壁面）に所定の間隔を隔てて設けられた部材であって、長形状の部材である。また、取り付け板部 2 1 は、略中央に円形の取り付け用孔 2 1 a を有している。

【0023】

接続部 2 2 は、取り付け板部 2 1 とクーラーボックス 1 の左側面 2 b とを接続するための部材であって、取り付け板部 2 1 及びクーラーボックス 1 の左側面 2 b に略直交するように設けられている。

【0024】

ハンドル 5 0 は、クーラーボックス 1 を運搬する際に用いるものであって、図 2 に示すように、持ち手部 5 1 と、突出部 5 2 と、ハンドル接続部 5 3 とを備えている。持ち手部 5 1 は、クーラーボックス 1 の運搬時に把持する部分であって、本体部 2 の長手方向に沿って延びる棒状の部分である。突出部 5 2 は、取り付け板部 2 1 の取り付け用孔 2 1 a に挿入される部分であって、ハンドル接続部 5 3 に設けられた部分である。また、突出部 5 2 は、ハンドル接続部 5 3 の下側先端からクーラーボックス 1 の左側面 2 b に向かって突出しており、取り付け板部 2 1 の取り付け用孔 2 1 a よりも小さな径の断面円形状の部分である。さらに、突出部 5 2 は、第 1 突出部分 5 2 1 と、第 2 突出部分 5 2 2 と、係止溝 5 2 3 とを有している。第 1 突出部分 5 2 1 は、取り付け板部 2 1 に接触する部分である。第 2 突出部分 5 2 2 は、第 1 突出部分 5 2 1 からさらにクーラーボックス 1 の左側面 2 b に向かって突出している。係止溝 5 2 3 は、第 2 突出部分 5 2 2 の周囲に形成されている。ハンドル接続部 5 3 は、突出部 5 2 と持ち手部 5 1 とを接続する部分であって、上端が持ち手部 5 1 に接続された棒状の部分 5 3 1 と、棒状の部分 5 3 1 の下側に設けられ突出部 5 2 が接続された円板状の部分 5 3 2 とを有している。

【0025】

抜け防止部材 6 0 は、取り付け用孔 2 1 a に挿入されたハンドル 5 0 が取り付け用孔 2 1 a から抜け出るのを防止するためのものであって、ハンドル 5 0 の取り付け時に取り付け板部 2 1 とクーラーボックス 1 の左側面 2 b との間に挿入される部材である。また、抜け防止部材 6 0 は、図 3 及び図 4 に示すように、第 1 係止部 6 1 と、板状部 6 2 と、付勢部 6 3 と、突起 6 4 と、指掛け 6 5 とを有している。第 1 係止部 6 1 は、取り付け板部 2 1 の下端に係止可能な部分であって、図 2 に示すようにクーラーボックス 1 の左側面に 2 b の逆側に突出している。また、第 1 係止部 6 1 は、板状部 6 2 の下端に接続された部分であって、フック状に形成された部分である。板状部 6 2 は、一端が第 1 係止部 6 1 に接続された部分であって、一部が係止溝 5 2 3 に嵌合可能な切り欠き 6 2 a を有している。この切り欠き 6 2 a は、上端から略中央に向かって徐々に細くなるように形成されており、先端に係止溝 5 2 3 の径とほぼ同じ径の円弧状の切り欠き部分 6 2 b が接続されている。なお、最も切り欠きの細い部分 6 2 c では係止溝 5 2 3 の直径よりも小さい幅になっており、係止溝 5 2 3 が最も切り欠きの細い部分 6 2 c を通過する際には切り欠き 6 2 a の近傍が弾性変形させられる。このために、円弧状の切り欠き部分 6 2 b に係止溝 5 2 3 が嵌合した状態から抜け防止部材 6 0 が下側に抜け落ちにくくなっている。また、板状部 6 2 は、長手方向の略中央部分で屈曲しており（図 2 参照）、弾性変形可能な部分である。このために、第 1 係止部 6 1 を取り付け板部 2 1 の下端に取り付けた状態で付勢部 6 3 は板状部 6 2 によってクーラーボックス 1 の左側面 2 b 側に付勢される。付勢部 6 3 は、板状部 6 2 が取り付け板部 2 1 側を通過させるための部分であって、クーラーボックス 1 の左側面 2 b 側に突出している。また、付勢部 6 3 は、図 2 に示すように、クーラーボックス 1 の左側 2 b 面に接触可能な接触部 6 3 1 と、クーラーボックス 1 の上端に係止可能な上端係止部 6 3 2 と、上側端面に指に係止させるための複数の溝を有する滑り止め部 6 3 3 とを有している。ここで、接触部 6 3 1 をクーラーボックス 1 の左側面 2 b に接触させた状態では、板状部 6 2 とクーラーボックス 1 の左側面 2 b との間に所定の隙間が形成されている。突起 6 4 は、板状部 6 2 の下端部に設けられており、抜け防止部材 6 0 を取り付けの際に取り付け板部 2 1 の下端と第 1 係止部 6 1 とが互いに係止するように第 1 係止部 6 1 を位置させるためのものである。また、突起 6 4 は、第 1 係止部 6 1 が取り付け板

2 1 に係止した状態でクーラーボックス 1 の左壁面 2 b に向かって突出しており、抜け防止部材 6 0 の幅方向略中央に形成されている。指掛け 6 5 は、第 1 係止部 6 1 から下方に延びるように設けられた部分であって、指が係止可能な孔 6 5 a が設けられた板状の部分である。なお、この部分にはクーラーボックス 1 内の水などに空気を挿入する空気ポンプを取り付けることもできる。

【0026】

係止部材 3 0 は、取り付け板部 2 1 と互いに係止することで、クーラーボックス 1 にベルト 4 0 を取り付けるための部材である。この係止部材 3 0 は、図 5 及び図 6 示すように、ベルト取り付け部 3 1 と、基板部 3 2 と、支点部 3 3 と、第 2 係止部 3 4 と、第 3 係止部 3 5 と、第 1 板バネ部 3 6 と、第 2 板バネ部 3 7 と、を有している。ベルト取り付け部 3 1 は、ベルト 4 0 を取り付け可能な部分であって、板状の部分である。基板部 3 2 は、ベルト取り付け部 3 1 と第 2 係止部 3 4 とを接続する部分であって、長方形の板状の部分である。支点部 3 3 は、ベルト取り付け部 3 1 の近傍に配置されており、基板部 3 2 に設けられた部分である。また、支点部 3 3 は、略半円柱状の部分 3 3 a と、略半円柱状の部分 3 3 a とベルト取り付け部 3 1 とを滑らかにつなぐ坂状の部分 3 3 b とを有している。第 2 係止部 3 4 は、取り付け板部 2 1 の下端に係止可能な部分であって、取り付け板部 2 1 の下端を覆うことが出来るようにフック状の部分である。第 3 係止部 3 5 は、取り付け板部 2 1 の上端に係止可能な部分であって、基板部 3 2 に対して略直交する方向（左側面 2 b が配置された方向の逆方向）に突出するように形成されている。第 1 板バネ部 3 6 は、第 2 係止部 3 4 と第 3 係止部 3 5 との間に配置され、基板部 3 2 からクーラーボックス 1 の左側面 2 b 側に突出するように屈曲した部分である。第 2 板バネ部 3 7 は、第 3 係止部 3 5 から下方に延びるように形成されており、第 3 係止部 3 5 が第 2 係止部 3 4 よりもクーラーボックス 1 の左側面 2 b 側に位置している場合にクーラーボックス 1 の左側面 2 b から離れる方向に第 3 係止部 3 5 を付勢する部分である。なお、第 1 板バネ部 3 6 及び第 2 板バネ部 3 7 によって付勢機構が構成されている。

【0027】

3. 動作

クーラーボックス 1 に水や魚等を収納する際の動作について説明する。

【0028】

蓋部 3 を開き本体部 2 の開口が露出する状態にする。そして、開口から水や魚等を本体部 2 の内部に設けられた空間に収納し、蓋部 3 を回動させて、蓋部 3 によって開口を塞ぐ。

【0029】

次に、クーラーボックス 1 にベルト 4 0 を取り付ける場合及ベルト 4 0 が取り付けられたクーラーボックス 1 からベルト 4 0 を取り外す場合の動作について説明する。

【0030】

クーラーボックス 1 にベルト 4 0 を取り付ける際には、先ず係止部材 3 0 のベルト取り付け部 3 1 にベルト 4 0 を取り付ける。そして、係止部材 3 0 を上側からクーラーボックス 1 の左側面 2 b と取り付け板部 2 1 との間に挿入する。このとき、支点部 3 3 をクーラーボックス 1 の左側面 2 b に接触させ、係止部材 3 0 を押し下げると、第 3 係止部 3 5 が取り付け板 2 1 の上部に接触し係止部材 3 0 の移動が止まる。そして、第 3 係止部 3 5 を押圧することで第 3 係止部 3 5 と取り付け板 2 1 との係止を解除し、係止部材 3 0 を押し下げ第 3 係止部 3 5 を孔 2 1 a 内に挿入させる。このとき、第 1 板バネ部 3 6 によって第 1 係止部 3 4 が取り付け板部 2 1 側に付勢されている。このような状態から、係止部材 3 0 を上側に引き上げると、第 3 係止部 3 5 は、円形の孔 2 1 a の上側縁に押圧され、第 3 係止部 3 5 の上端に形成されているテーパによってクーラーボックス 1 の左側面 2 b 側に移動させられる。さらに、係止部材 3 0 を上側に引き上げると、図 7 に示すように、第 2 係止部 3 4 が取り付け板部 2 1 の下端に係止し、同時に第 1 板バネ部 3 6 及び第 2 板バネ部 3 7 に付勢されて第 3 係止部 3 5 が取り付け板部 2 1 に係止する。

【0031】

取り付け板部 2 1 に係止部材 3 0 が取り付けられた状態から係止部材 3 0 を取り外す際には、第 3 係止部 3 5 をクーラーボックス 1 の左側面 2 b 側に押圧し、第 3 係止部 3 5 と取り付け板 2 1 との間の係止を解除する。または、円形の孔 2 1 a を通して第 2 板バネ部 3 7 を押圧する。第 2 板バネ部 3 7 を押圧すると、第 3 係止部 3 5 がクーラーボックス 1 の左側面 2 b 側に移動し、取り付け板部 2 1 の上端での係止が解除される。なお、第 2 係止部 3 4 の係止が解除される位置まで第 2 係止部 3 4 をクーラーボックス 1 の左側面 2 b 側に押圧し、第 3 係止部 3 5 が孔 2 1 a に入るまで押し下げることができる。そして、第 3 係止部 3 5 と取り付け板部 2 1 との係止を解除した後に、支点部 3 3 を中心として回転させることで、第 2 係止部 3 4 の取り付け板部 2 1 との係止が解除され、係止部材 3 0 を上側に引き抜くことで、ベルト 4 0 を取り外す。

10

【0032】

ハンドル 5 0 を取り付ける際には、取り付け板部 2 1 の取り付け用孔 2 1 a に突出部 5 2 を挿入し、抜け防止部材 6 0 を下側から取り付け板部 2 1 とクーラーボックス 1 の左側面 2 b との間に挿入する。具体的には、接触部 6 3 1 をクーラーボックス 1 の左側面 2 b に接触させた状態で上側に移動させると、板状部が略「へ」の字状（「V」字状）に形成されているために切り欠き 6 2 a のクーラーボックス 1 の左側面 2 b からの距離と、係止溝 5 2 3 のクーラーボックス 1 の左側面 2 b からの距離とがほぼ等しくなる。このように接触部 6 3 1 をクーラーボックス 1 の左壁面 2 b に接触させながら上側に抜け防止部材 6 0 を移動させると、係止溝 5 2 3 は、切り欠き 6 2 a に挿入されていき、最も切り欠きの細い部分 6 2 c を通過した後、円弧状の切り欠き部分 6 2 b と互いに係止される。このとき、クーラーボックス 1 本体の上端に上端係止部 6 3 2 が係止される。このようにして抜け防止部材 6 0 を取り付ける（図 2 参照）。

20

【0033】

ハンドル 5 0 を取り外す際には、付勢部 6 3 の上面に設けられた滑り止め部 6 3 3 に指を係止させ、クーラーボックス 1 の左壁面 2 b から離れる方向に付勢部 6 3 を移動させる。このとき、同時に抜け防止部材 6 0 を下側に押し出す。その後、指掛け 6 5 に指を係止し、抜け防止部材 6 0 を下側に引き抜く。そして、突出部 5 2 を取り付け用孔 2 1 a から引き抜くことで、ハンドル 5 0 を取り外す。

【0034】

ここでは、ハンドル 5 0 をクーラーボックス 1 に取り付ける際に、抜け防止部材 6 0 によってハンドル 5 0 が取り付け用孔 2 1 a から抜け出るのを防止できる。また、付勢部 6 3 及び板状部が略「へ」の字状に屈曲していることによって切り欠き 6 2 a が係止溝 5 2 3 にはまり込みやすくなる。さらにハンドル 5 0 に替えてベルト 4 0 を取り付けることもできる。

30

【0035】

4. 他の実施形態

上記実施形態では、付勢部 6 3 の上端係止部 6 3 2 がクーラーボックス 1 に係止可能であるが、本発明はこれに限らずに、付勢部 6 3 によって板状部 6 2 がクーラーボックス 1 の右側面 2 d 及び左側面 2 b 側への移動を規制できれば良い。

【符号の説明】

40

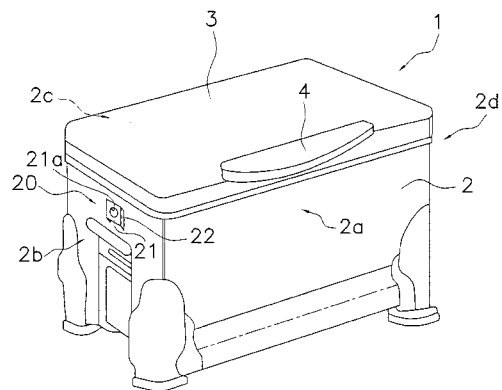
【0036】

- 1 クーラーボックス
- 2 b 左側面（壁面）
- 2 1 取り付け板部（取り付け板）
- 2 1 a 取り付け用孔
- 3 0 係止部材
- 3 1 ベルト取り付け部
- 3 3 支点部
- 3 4 第 2 係止部
- 3 5 第 3 係止部

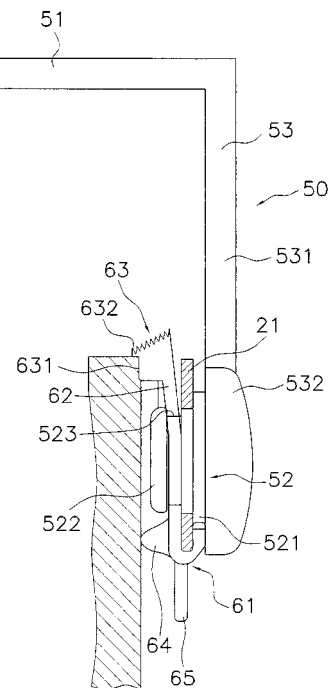
50

- 3 6 第 1 板バネ部 (板バネ部)
- 3 7 第 2 板バネ部
- 4 0 ベルト
- 5 0 ハンドル
- 5 2 突出部
- 6 0 抜け防止部材
- 6 1 第 1 係止部
- 6 2 板状部
- 6 3 付勢部
- 5 2 3 係止溝 (溝)

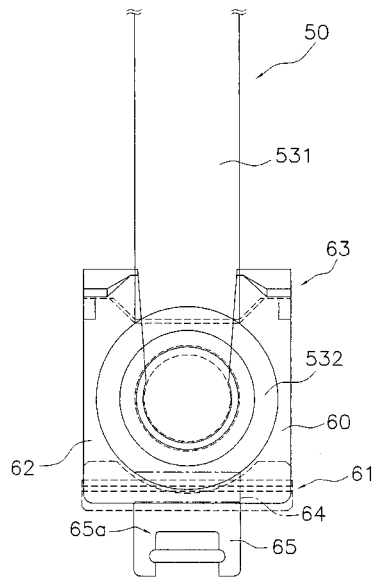
【図 1】



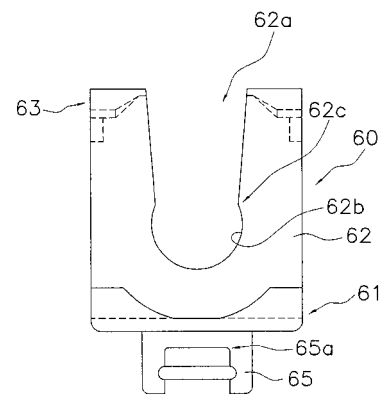
【図 2】



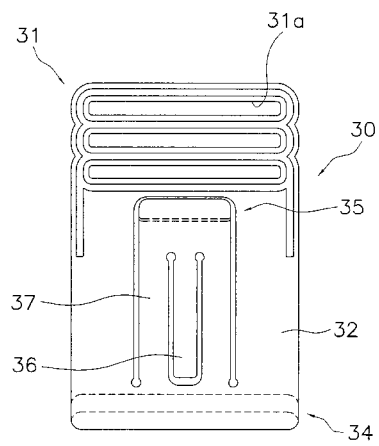
【図 3】



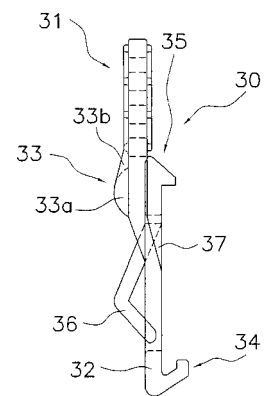
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

